

# 韓国大学スポーツ協議会の 学生による広報・マーケティング事業

Advertising and Marketing Activities by College Students  
of the Korea University Sport Federation

閔 允 淑\*, 小 林 勝 法\*\*

Yoon-Suk Min , Katsunori Kobayashi

## Abstract

To encourage students to participate in sports, the Korea University Sport Federation (KUSF) conducts “KUSF College Student Reporters” and “U-Sports Marketing Learner & Runner” programs as promotion and marketing activities for university sports. This study analyzes the contents and achievements of these programs. The “KUSF College Student Reporters” program provides opportunities for students to experience university sports coverage and to learn how to report. The “U-Sports Marketing Learner & Runner” program provides opportunities for students to practice in the sports marketing field. These also support their careers and enable them to learn the value of “support” sports. The case of KUSF serves as a reference for university sports in Japan.

キーワード：大学スポーツ、KUSF、UNIVAS

韓国における学校スポーツ政策の特徴は、学生選手と一般学生を分けて政策及び事業が展開されることである。学生選手は、学校内の運動部に所属し、韓国国民体育振興法第33条（統合体育会）及び第34条（大韓障害人体育会）による体育団体に登録され、選手として活動する学生をいう。韓国の場合、「学校運動部」は選手育成を主な目的として運営されている。このような学校運動部システムは、小学校から大学までである。一方、一般学生の場合、放課後のスポーツ活動の振興のために小学校から高校までは国の政策として「学校スポーツクラブ」を運営するが、大学か

らは、学生が主体的になって運営・活動するサークル形式に変わる。このような制度的要因は大学生になってからスポーツに触れる機会が少なくなる傾向にも影響していると考えられる。その中で、2010年に設立された韓国大学スポーツ協議会（한국대학스포츠협의회）（Korea University Sport Federation）（以下「KUSF」と略する）は、一般学生のスポーツ活動の振興のために「KUSFチャンピオンシップ」という競技大会を主催・主管し、さらに、学生による大学スポーツ広報・マーケティング活動として「KUSF大学生記者団」と「Uスポーツマーケティングラーナ

\* 筑波大学大学院人間総合科学研究科大学院生

\*\* 文科大学国際学部教授

ー (Learner & Runner) 』<sup>1</sup> の事業を展開し、一般学生のスポーツ参加を促している。

したがって本研究では、特に学生による広報・マーケティング活動に注目し、事業内容や成果について分析することを目的とした。そのためまず、KUSF の組織の概要、KUSF の主要事業について概観した上で「KUSF 大学生記者団」と「U スポーツマーケティングラーナー」について分析した。本研究では文献資料と関係者へのインタビュー調査結果を用いて分析した。用いる文献資料は、① KUSF 関連論文、② KUSF 年鑑 (2016, 2017, 2018, 2019)、③ KUSF 定款及び運営規定、④ KUSF 内部資料 (インタビュー調査から入手した資料である)。また、2019KUSF チャンピオンシップ (2019.11.2) の視察と KUSF 関係者のインタビュー調査 (2020.6.23) を行い、実際の活動と事業内容の把握を行った。

## 1. KUSF の概要

### 1.1 KUSF の設立経緯と設立目的

韓国において大学の経営の合理化や定員の減少などにより、運動部は年々縮小・廃部される傾向にあった。また、学校運動部をめぐる人権・学習権に関する問題などが社会的に注目され、大学スポーツの正常化及び振興のための改善策が求められるようになった。その中で、米国の NCAA (National Collegiate Athletic Association) を参考に、大学スポーツを担当する組織として 2010 年 6 月 8 日に KUSF が設立された。KSUF は韓国の文化体育観光部 (Ministry of Culture, Sports and Tourism) の所管の非営利法人である。

KUSF の設立目的は、「大学スポーツの健全な育成と発展を図り、大学スポーツの本質を回復してスポーツ先進化を達成するための大学スポーツに関する学業・財政・施設などの主要な事項について自律的協議と研究・調整を通して

相互協力し、学生選手のスポーツ活動と研修を通して精神的・肉体的・社会的に健全なリーダーシップを備えるようにし、スポーツ発展に必要な政策を政府に建議して優秀な競技者の養成と国民統合及び国家イメージ向上に資すること」である (KUSF 定款第 2 条)。

また、KUSF のビジョンとして SYSTEM (先進型大学スポーツシステムの構築)、LEADERSHIP (学生選手の健全なリーダーシップの向上)、GLOBAL (グローバルスポーツ人材の育成)、CULTURE (大学スポーツの健全な文化創造) を上げている (図 1 参照)。



(出典：KUSF ホームページ)

図 1) KUSF ビジョン

### 1.2 KUSF の組織

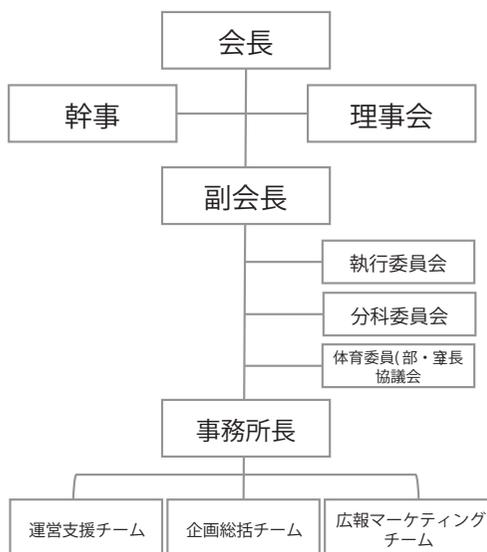
KUSF の設立当時の名称は、「大学スポーツ総長協議会」であった。2018 年 8 月に名称を変更し、現在の名称になるが設立当時は大学のスポーツ振興のために大学総長がリーダーシップを取ることを重視していたことが名称から伺える。したがって、設立の当時から現在までも

<sup>1</sup> Learner の意味と Runner の意味を両方持ち、本稿では「ラーナー」と書く。

KUSFの役員は、大学の総長で構成されている。役員として会長（1名）、副会長（6名）、理事（10名）、監事（2名）をおいている。現在は、第6代会長として韓国高麗大学の総長が務めている（図2参照）。

また、執行委員会（15名）を設け、大学教授を中心に構成している。そして、分科委員会として学士運営委員会（7名）、競技支援委員会（7名）、財政・マーケティング委員会（7名）、賞罰委員会（7名）をおいている。現在は運営していないが、今後各大学の運動部を担当する部長または室長を中心に体育委員（部・室）長協議会の設置を計画している。

事務所は、事務所長（1名）の下、運営支援チーム（5名）、企画総括チーム（7名）、広報マーケティングチーム（6名）を設けている。



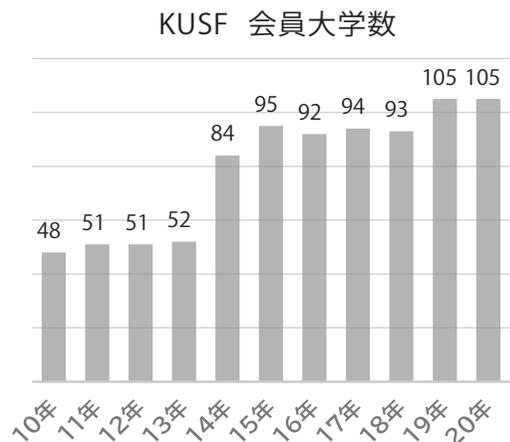
（出典：2019 KUSF 年鑑, p.7）

図2) KUSF 組織図

### 1.3 KUSFの会員大学

2010年6月8日のKUSFの設立当時には、

48大学が会員であったが、年々増加する傾向であり、2020年現在は、105大学が会員大学になっている（図3参照）。韓国は全国に372大学（通信大学も含む）があるが、その約28%の大学が会員大学になっている。



（出典：KUSF 内部資料）

図3) KUSF 会員大学数の推移

会員大学は、国公立21校、私立84校であり、4年制大学は86校、2・3年制大学は19校である。また、会員大学の競技種目は大韓体育会（Korea Sport & Olympic Committee）に登録されている44種目とほぼ同じぐらいである。

### 1.4 KUSFの大学スポーツ運営規定

KUSF大学スポーツ運営規定は、全8節、81条で構成されている。第1節は総則、第2節はスポーツ倫理とアマチュアリズム、第3節は協議会及び大学、第4節は学生選手の入学選抜及び学業管理、第5節は競技運営、第6節は体育部・運動部の運営及び競技指導者の採用、第7節は財政及びマーケティング、第8節は補償及び懲戒について定めている<sup>2</sup>。

<sup>2</sup> 韓国大学スポーツ協議会（2020.2.7 改正版）KUSF 大学スポーツ運営規定

主要規定として、非倫理的行為を禁止するための第2節第9条は、スポーツ賭博、体罰、暴行、性暴力、セクシュアルハラスメント及び禁止薬物服用などの行為を禁止し、学生選手の選抜と学業管理の公正性を害する全て違法行為を禁止している。また、学生選手の入学選抜の公平性を確保するための第4節第19条は、入学誘因の目的に利益提供などの入試不正行為を禁止し、同節第21条は入学要項に学業成績を反映することを定めた。また、学生選手の学習権を保障するための同節第25条は、試合直前の2学期の学業成績がC<sup>o</sup>以上を取得しなければKUSFが主催・主管・承認する大会に参加できないことを定めた。C<sup>o</sup>は、GPAで2.0を意味する。その基準は、2017年1学期から適用したが、適用初回は、7.15%の学生選手が大会に参加できなかったが、2017年2学期は4.68%、2018年1学期は2.59%、2018年2学期は2.45%、2019年1学期は2.21%、2019年2学期は1.78%と年々減少しており、成果を上げている（表1参照）。

表1) 学生選手の学業成績推移

成績提出人数			
区分	人数	参加不可	割合
2017 年1学期	1,398	100	7.15%
2017 年2学期	1,324	62	4.68%
2018 年1学期	2,552	66	2.59%
2018 年2学期	2,404	59	2.45%
2019 年1学期	2,536	56	2.21%
2019 年2学期	2,365	42	1.78%

(出典：2019 KUSF 年鑑, p.60)

さらに、学生選手の学業管理の正常化のための同節第27条は、KUSFが承認していない大

会の参加を禁止し、学期中のトーナメント大会の参加を控えることを定めた。

当初は、「C<sup>o</sup>ルール」に対して競技団体や選手、保護者からの反対もあったが、年々出場不可の学生選手の割合が減っており、肯定的に定着されている雰囲気であると評価されている。

### 1.5 KUSFの財政状況

KUSFの主な収入源は、文化体育観光部の国民体育振興基金からの補助金である。2017年の補助金は約107億5千万ウォンであったが、2018年は約147億7千万ウォン、2019年は約154億8千万ウォンと年々補助金の金額が増加しており、KUSFの事業規模も年々大きくなっていると考えられる。また、補助金以外の収入源としては、KUSF入会費と年会費がある。入会費は入会当時のみで1,000万ウォンを払い、年会費は毎年200万ウォンを払う。また、マーケティング収益があるが、年会費とマーケティング収益を合わせて約1億ウォンぐらいであり、全体の収入の約1割程度である。

## 2. KUSFの主要事業

KUSFが実施している主要事業は、第1に大学運動部の評価及び支援事業、第2に学生選手入学選抜の正常化事業、第3に学生選手の学業管理の正常化事業、第4に大学スポーツ研修の強化事業、第5にKUSF大学スポーツUリーグ運営事業、第6にKUSFクラブチャンピオンシップ運営事業、第7に大学スポーツ表彰及び国際交流事業、第8に大学スポーツ総合マーケティング事業などである。学生選手及び運動部を対象にする事業が多くあるが、その中で一般学生を対象にする事業は、第6のKUSFクラブチャンピオンシップ運営事業と第8の大学スポーツ総合マーケティング事業である。

## 2.1 大学運動部の評価及び支援事業

KUSF が開発した「大学運動部評価指標」及び評価体系を活用して各大学運動部を評価し、選定された大学運動部を財政的に支援している。

大学運動部評価指標の評価領域として、投資

及び施設のインフラ、学生選手の運営管理及び支援、学生選手の確保及び能力、指導者の確保及び能力、大学運動部の社会貢献を定めている（表2参照）。

KUSF が支援する内容は、練習品費、練習費、大会出場費などである。ただし、支援に対象に

表2) KUSF の運動部評価指標

評価領域	評価指標
投資及び施設のインフラ	大学運動部運営支援の実績
	大学運動施設確保の実績
学生選手の運営管理及び支援	大学運動部人員確保の実績
	大学運動部学生管理及び支援運営
	大学運動部選手学業の成就度
	大学運動部就職率
	学生選手入試要項の適正性
学生選手の確保及び能力	大学運動部人員数
	大学運動部国内・国際大会の出場実績
	大学運動部国内・国際大会の入賞実績
	大学運動部学生選手能力の向上度
	大学運動部学生選手の高潔度
	大学運動部女性学生選手の割合
指導者の確保及び能力	大学運動部専任指導者の確保率
	大学運動部指導者の待遇改善実績
	大学運動部指導者の能力指数
	大学運動部指導者の高潔度
	大学運動部女性指導者の人数
大学運動部の社会貢献	大学運動部の社会的協力及び寄与度
	KUSF運営規定運営の運営計画の策定
	KSUF施行事業の協力及び参与度

（出典：2019KUSF 年鑑, p.19）

なる大学は、KUSFの会員大学であり、スポーツ関連不正行為などに関わっていない大学を対象としている。2019年には、同事業を申請した100校の大学の全てに対し、総計68億ウォンを支援した。各大学の運動部評価により、会員大学の現状を把握し、大学運動部の環境の改善を通して競技力向上にも繋がる事が考えられる。

## 2.2 学生選手入学選抜の正常化事業

KUSFは、学生選手の入学選抜やその手続きにおいて公正性と透明性を保障するためにスポーツ特待生の入試説明会を開催し、入試ポータルサイトの構築、入試要項の発刊を行っている。スポーツ関連大学の入試情報を入手しやすくしている。

入試の説明会は、学生選手、保護者、指導者及び教師を対象に行い、7月から8月の間に開催される。主に入試要項の説明と対面相談を行

う。対面相談は、希望する大学も説明会に参加し、参加者と直接相談できる場を設けている。説明会の参加者も年々増加する傾向にある。2017年には3回開催し、560名が参加した。2018年には7回開催し、1,681名、2019年には5回開催し、1,028名が参加した。説明会は、全国各地で開催し、指導者の情報に依存して来た入試状況の改善を図っている。

また、スポーツ特待生の入試要項を2013年から毎年発刊している。さらに、スポーツ特待生の入試ポータルサイト (<http://info.kusf.or.kr/kusf/portal/main/main.do>) を構築しており、スポーツ特待生に関連した総合的な情報が検索できる(図4参照)。スポーツ特待生の入試ポータルサイトは、種目別、大学別に入試情報が検索でき、スポーツ特待生の入試政策及び日程の確認、関連ニュースなどの情報も確認できる。また、ポータルサイトにおいて入試説明会の参加申し込みもできる。このようにス



図 4) KUSF スポーツ特待生入試ポータルサイト

スポーツ特待生の総合情報のポータルサイトの構築は、大学入試情報の混乱を予防し、透明な入試資料が体系的に管理でき、地域差なく、運動部を運営している学校の教師や指導者の進学指導の資料にもなっている。

### 2.3 学生選手の学業管理の正常化事業

学生選手の学業管理及び競技運営の正常化を通して大学スポーツの健全な育成と発展を図ることを目的に大学運動部の学業支援プログラムと韓国の国家代表選手村である鎮川（ジンチョン）選手村への出張授業プログラムを実施している。

特に、KUSF が主催する大学スポーツ U リーグの競技参加条件として大会直前の 2 学期の学業成績が C<sup>+</sup> 以上であることを定めている。そのために学業支援プログラムでは実質的なサポートとしてチューター制の導入を促し、申請して採択された大学には、チューター制の運営費用を支援している。KUSF が支援する大学は、学業管理支援プログラムの運営マネージャー（大学の事務担当者）を配置すること、学生選手とチューターをマッチングして運営すること、チュータリングプログラムを基本とすること、週 1 回以上対面チュータリングすること、最初にオリエンテーションをすることを条件としている。また、学生選手の学業レベルによって一般学生や大学院生、講師、教授をチューターとして指導することを提案している。

また、KUSF は、国家代表の学生選手が学業と練習を両立できるように韓国の国家代表選手村である鎮川選手村での単位認定授業を実施している。主に韓国体育大学が主管大学となって授業の開設や運営を支援している。年間最大 20 単位を履修でき、授業は、学生選手の練習時間を考慮し、平日は水曜日・木曜日・金曜日に午後 7 時から 9 時 50 分まで、土曜日は午前 9 時から 11 時 50 分まで授業を行っている。2019 年の鎮川選手村への出張移動授業は、計 11 科目を実施し、57 名の国家代表大学生選手

が受講したが、単位を取得できた学生選手は、39 名であった。

### 2.4 大学スポーツ研修の強化事業

大学スポーツ研修の強化のために学生選手と指導者を対象に研修を行っている。学生選手の研修は「大学運動部学生の素養研修」、「新入学生選手の研修」、「リーダーシップ研修」を実施している。まず、大学運動部学生の素養研修は、大学運動部の学生選手の倫理意識の向上及び大学スポーツ内での健全な文化の醸成のために、スポーツ人権、倫理、安全、ドーピング防止など学生選手が備えるべき基本素養を内容に KUSF 会員大学へ直接訪問して研修を行っている。また、新入学生選手の研修は、大学学生選手の役割を理解させるために、大学スポーツリーグ運営規定と大学スポーツ U リーグ運営規定について説明し、学業の管理方法などを内容について行っている。また、リーダーシップ研修は、大学運動部を進化させるために各運動部のキャプテンを対象にリーダーシップやコミュニケーション能力などについて行っている。

また、各大学の運動部指導者や体育部事務担当者を対象に「指導者リーダーシップ研究会」と「指導者職務研修及び国際シンポジウム」を開催している。指導者のリーダーシップの研修とともに職務能力向上及び大学スポーツの海外先進事例を共有している。

### 2.5 KUSF 大学スポーツ U リーグ運営事業

大学スポーツリーグの運営を通して学生選手の学習権保障及び競技力を向上し、大学キャンパス内でのホームアンドアウェーリーグの開催により、大学構成員の応援文化形成及び大学スポーツ認知度の向上を目標に「KUSF 大学スポーツ U リーグ」を運営している。バスケットボール（男女）、バレーボール（男女）、アイスホッケー（男）、野球（男）、ソフトテニス（男）、

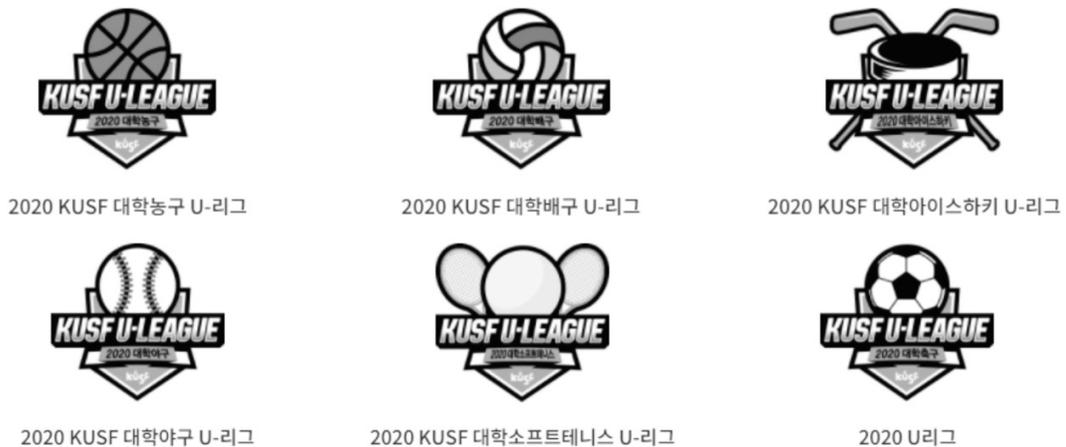


図 5) KUSF U 리그의各競技のロゴマーク

サッカー（男）の計6種目を運営し、計103大学の2,365名の学生選手が参加している（2019年秋学期）。

特に、KUSFのホームページ内にUリーグ統合管理システムを構築し、大学別の選手案内や競技別日程・結果、チーム記録、個人記録、競技映像などを公開している。

## 2.6 KUSFクラブチャンピオンシップ運営事業

大学生に多くのスポーツ参加機会を提供し、スポーツ文化を醸成するために一般学生を対象に「KUSFクラブチャンピオンシップ」を運営している。地域予選を通して上位チームを選抜し、決勝大会を通してクラブチャンピオンを選ぶ。2014年から開催され、バスケットボール（男女）、野球（男）、バレーボール（男女）、サッカー（男女）、3×3バスケットボール（男女）のチャンピオンシップを行う。2019年のKUSFクラブチャンピオンシップに参加したチーム及び選手数は、予選は430チーム7,248名、決勝は48チーム806名であった。

クラブチャンピオンシップに参加する学生数

は、年々増加している。2017年は、予選は225チーム3,967名、決勝は48チーム714名が参加した。2018年は、予選は372チーム6,179名が参加し、決勝は67チーム748名が参加した。

クラブチャンピオンシップも、Uリーグと同様に競技別日程・結果、チーム記録、個人記録、競技映像などをKUSFホームページ内において公開している。

## 2.7 大学スポーツ表彰及び国際交流事業

学業と運動を両立するシステムの定着及び大学スポーツ文化の醸成のために優秀な学業成績と優れた競技力を上げた学生選手、学生選手の学習権保障及び競技力向上のために寄与した指導者、学業と運動の両立システムの定着のために努めた大学を対象に毎年総会において「KUSF AWARDS」という表彰式を設けて賞状と奨学金あるいは奨励金を授与している。

また、韓国型システムの構築や海外大学スポーツ関連機関とのネットワーク強化することを目的に国際交流を行っている。2019年11月には、オーストラリアの大学スポーツ協会



2019 농구 챔피언



2019 야구 챔피언



2019 배구 챔피언



2019 축구 챔피언

図6) 各 KUSF クラブチャンピオンシップの各競技のロゴマーク

UniSport の代表と Sunshine 大学のマネージャーを招待し、国際シンポジウムを開催した。438 名の各大学の関係者と指導が参加し、オーストラリアの大学スポーツの運営システムや学業支援プログラムの紹介、Sunshine 大学の事例などを紹介した。

### 3. 大学スポーツ統合マーケティング事業

KUSF は、学生選手だけでなく、一般学生も愛好するスポーツを持つように奨励しており、「What's your Sports?」というキャッチコピーでマーケティング戦略を行っている。特にスポーツ文化の普及のために大学生自身が大学スポーツ文化を広報する事業を運営している。「KUSF 大学生記者団」と「U スポーツマーケティングリーダー」事業は、大学生による大学スポーツの取材やスポーツマーケティング分野の教育と実務体験を通してスポーツの価値を知ってもらい、彼らの活動が大学スポーツの広報にも繋がり好循環をもたらす事業である。

#### 3.1 KUSF 大学生記者団

##### 3.1.1 制度の趣旨

KUSF では、大学スポーツの主要消費者である大学生自身が製作するコンテンツを通して大学スポーツの広報強化を目的に KUSF 大学生記者団を運営している。

##### 3.1.2 募集・選抜方法・活動人数

大学スポーツに関心があり、取材したい大学生を対象に KUSF ホームページにおいて記者団を募集する。第 1 次審査として書類審査、第 2 次審査として面接審査を通して学生記者を選抜する。活動内容は、大学スポーツ U リーグ及び各大学スポーツ競技大会の取材、大学スポーツ関連コラム作成とインタビュー企画取材である

2016 年から 2019 年までに活動した KUSF 大学生記者は、計 146 名である。年々募集する記者の人数も増えており、2016 年は 10 名、2017 年は 30 名、2018 年は 50 名、2019 年は 56 名であった。主にバスケットボール、バレーボール、野球、サッカー、その他と分け、5 つのチームで活動する。

オリエンテーションを通して本事業の目的や記事作成におけるガイドライン、記事のアップデート方法などを学習する。ただし、記事の作成スキルについては教えず、ある程度自由に学生が企画した記事を書くようにし、担当者の検討の後、記事が載せられるようになる。また、原稿料及び活動費として記事ごとに 2～4 万ウォンが支給される。

##### 3.1.3 活動内容及び成果

記者団の記事や大学スポーツ関連の情報は、広報メディアを利用して情報を発信している。特に、フェイスブックにおいて「KUSF

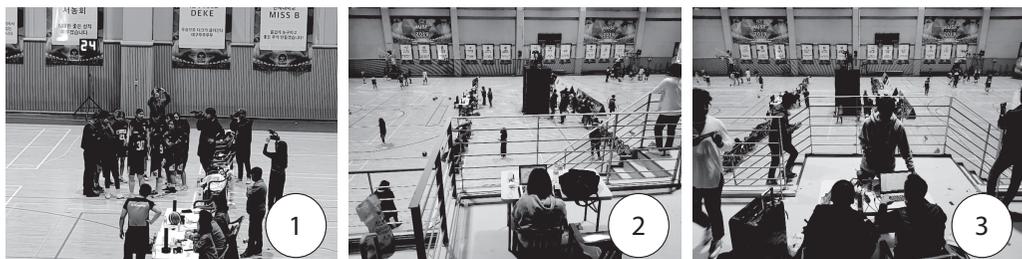
公式フェイスブック (www.facebook.com/kusfsport)」、KUSF 大学スポーツ U リーグフェイスブック (www.facebook.com/kusfuleague)」、「KUSF クラブチャンピオンシップフェイスブック (www.facebook.com/kusfclub)」を開設して運営している (図7参照)。KUSF 公式フェイスブックでは、KUSF 事業及び行事の紹介、会員大学及び大学スポーツ関連情報などを共有し、KUSF クラブチャンピオンシップフェイスブックや KUSF 大学スポーツ U リーグフェイスブックでは、主に

各大会関連の情報に特化し、参加チームの紹介や大会情報や試合結果などの情報が載せられる。ほかに KUSF ブログ (blog.naver.com/kusf\_sport) や KUSF インスタグラム (www.instagram.com/kusf\_SPORT) なども運営している。

KUSF 大学記者団は、大会前後に学生選手及び指導者をインタビューし、試合中には、競技場面を撮り (図8, ①参照)、大会場に設けられている記者団席において随時に競技内容を作成してアップしている (図8, ②, ③参照)。



図7) KUSF が運営するフェイスブック



(韓国横城国民体育センター .2019.11.2. 筆者撮影)

図8) KSUF 大学生記者団の活動場面

また、KUSFは、2017年7月20日から韓国国内で最大手のインターネット検索ポータルサイトである「ネイバー (NAVER) (www.naver.com)」の「ネイバースポーツ (sports.news.naver.com)」において「大学スポーツ」セクションを開設した。記者団がアップロードした大学スポーツ関連コンテンツは、2017年は428件、2018年は3,474件、2019年4,012件であった(図9参照)。

また、ネイバーにおいて大学スポーツセクションを構築したことにより、既存の大学スポーツマガジンを運営している大学生記者団サークルの活動も一層活発的になった。さらに、KUSF 大学記者団の活動を終えた学生が、大学でスポーツ記者団サークルを作り、活動を続ける場合も生じ、大学スポーツマガジン運営する大学も年々増加する傾向である。2017年は6大学、2018年は8大学、2019年には14大学まで増えた。また、以前は、大学スポーツ競技大会の報道や記事化は、主要大学のみであったが、種目ごとに活動する KUSF 大学生記者団の活動により、その他の大学の大会も紹介され

るようになった。さらに、地方新聞社では KUSF 大学生記者団の記事内容を利用するケースも増えており、大学スポーツマガジンの活性化を誘導するとともに大学スポーツ広報に貢献していると言える。今後は、記者団の選抜や運営種目の強化、企画・連載シリーズの拡大などを課題としている。

### 3.2 KUSF Uスポーツマーケティングラーナー (Learner & Runner)

#### 3.2.1 制度の趣旨

スポーツ分野のキャリア形成の実質的な支援方法としてスポーツマーケティングの実務経験を提供する「KUSF U マーケティングラーナー (Learner & Runner)」プログラムは2016年から運営している。2016年には、スポーツマーケティングを学びたい大学生を対象にしたが、2017年には、運動部経験がある大学生のみとし、2018年からは、運動部経験がある学生と一般大学生両方が参加できるように対象を変更して実施した。

特に、2017年から個人的な事情により運動

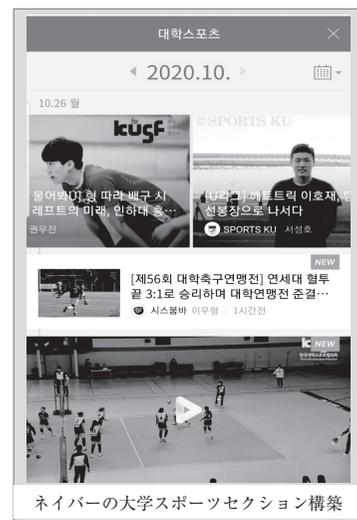
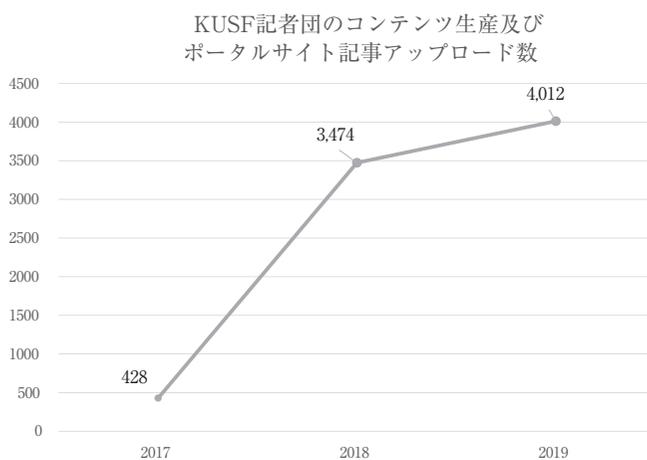
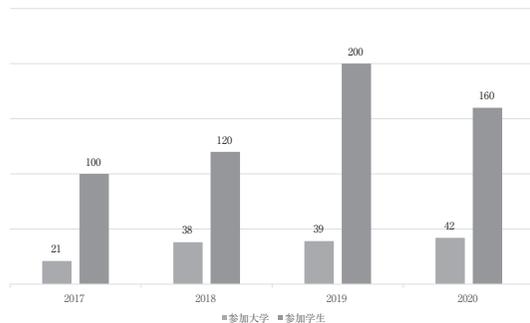


図9) KUSF 大学生記者団のコンテンツアップロード推移

部を辞めた大学生に注目し、実技ではないスポーツ分野でのキャリア形成の機会を提供している。また、運動部活動により、一般学生との交流が少なかったことを考慮して当プログラムを通して一般学生との交流ができる機会をつくることを狙いとしている。

### 3.2.2 募集・選抜方法・希望者数

KUSF U マーケティングラーナーの活動期間は、約8か月間である。KUSF ホームページにおいてラーナーを募集し、第1次審査として書類審査、第2次審査として面接審査を通して選抜される。参加大学生数も増える傾向であ



(2017,2018,2019 KUSF 年鑑及び KUSF 内部資料参考)

図 10) KUSF U マーケティングラーナー参加大学及び学生数

り、2016 年は 21 大学 100 名の学生が選抜され活動し、2017 年は 38 大学 120 名、2018 年は 39 大学 200 名、2020 年には 42 大学 160 名の大学生が参加した (図 10 参照)。

### 3.2.3 活動内容及び成果

ラーナーの活動内容は、大きく 2 つに区分される。第 1 に実務能力の強化と第 2 に就職競争力の強化である (表 3 参照)。まず、第 1 の実務能力の強化では、①大学スポーツの広報活動と②スポーツ企業との連携活動を行う。①大学スポーツの広報活動としては、大学キャンパス内で開催される「KUSF 大学スポーツ U リーグ」において校内の在大学生や大学構成員などを対象に大学スポーツの広報や競技場への集客活動を行う (図 11, ①・②参照)。ラーナーは活動中に必要なものを企画・作成する (図 11, ③・④参照)。また、競技場の前で簡単なゲームや集まった学生とともに応援を行い競技場の雰囲気を一層盛り上げる (図 11, ⑤・⑥参照)。

また、KUSF は、校内でも競技場まで足を運べない場合や相手学校のチームのために校内の広場で大型スクリーンを設置して、観戦する場を提供している。また、ラーナーは、「KUSF

表 3) KUSF U マーケティングラーナーの活動内容

区分	事業	内容
実務能力の強化	大学スポーツ広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KUSF 大学スポーツ U リーグ広報マーケティング実務体験</li> <li>・ KUSF クラブチャンピオンシップ大会運営及び広報実務体験</li> </ul>
	スポーツ企業連携活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ企業連携アイデア企画</li> <li>・ スポーツイベント現場実務体験</li> <li>・ スポーツ関連企業訪問</li> </ul>
就職競争力の強化	スポーツ産業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ産業関連実務者の特別講演</li> <li>・ 映像及びマーケティングコンテンツの企画及び実習関連教育</li> <li>・ 運動部出身大学生のキャリア形成関連トークショー</li> </ul>
	個人力量強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職関連講演 (自己紹介書の作成法, PPT の基礎及びスキル等)</li> <li>・ 就職関連資格取得支援 (パソコン活用能力, スポーツ経営管理士等)</li> </ul>

(出典：2019KUSF 年鑑, p.40)



(出典：KUSF ホームページ)

図 11) KUSF U マーケティングラーナーの活動場面 1

クラブチャンピオンシップ」の大会には、大会運営にも参加し、実務を経験する。

②スポーツ企業の連携活動は、スポーツ企業と連携してアイデアを企画、スポーツイベントの現場の実務体験やスポーツ関連企業の訪問などを行う。2018年からは韓国バスケットボールプロチームである「ソウルサムスンサンダーズ」のチームと連携し、2018年には「ソウルサムスンサンダーズのホーム競技場内のイベント企画」を、2019年には、「観衆流入のための場外イベント企画」を行った。ラーナーからの

企画・発表したものは、実際にサンダーズ関係者からフィードバックをしてもらう(図 12.①・②参照)。また、優勝したアイデアは、実際に適用し、2018年には12名のラーナーがシーズン契約社員として採用されることもあった。

第2に就職競争力の強化は、①スポーツ産業研修と②個人力量強化活動を行う。①スポーツ産業研修は、スポーツ産業の実務者の講演参加や大学生のトークショーを行い、マーケティングキャンプを行う(図 12.③・④参照)。2019



(出典：KUSF ホームページ)

図 12) KUSF U マーケティングラーナーの活動場面 2

年にはプロスポーツ及び関連職の専門家の講演を 18 回実施した。②個人力量強化では、履歴書及び自己紹介書の作成方法、PPT の作成スキルなどを習い、就職関連資格の取得を支援している。

KUSF U マーケティングラーナー活動により、大学バスケットボールリーグ観客数が 120% 増加し、大学バレーボールリーグの場合は 290% 増加したと報告されている<sup>3</sup>。また、2018 年のラーナープログラムに参加した大学生が取得したスポーツ関連資格証は合計 110 個にも達した。さらに、ラーナープログラム参加学生の満足度調査では、ラーナー活動がキャリアアップに繋がったと 94.3% が答え、プログラムに満足したと 88.8% が答え、また、ラーナー

活動がスポーツ分野の知識向上に役に立ったと 71.4% が答えた<sup>4</sup>。参加学生の多くがラーナープログラムに満足していると言える。今後は、参加学生の拡大やプログラムの運営期間、内容の補完などを課題としている。

#### 4. まとめ

大学生自身が大学スポーツ文化を広報する「KUSF 大学生記者団」と「U スポーツマーケティングラーナー」の事業は、大学スポーツの取材やスポーツマーケティング分野の教育と実務を体験でき、参加学生のキャリアサポートにも繋がり、「支える」スポーツの価値を实际的に学ぶ機会に繋がっていると考えられる。大学スポーツの振興を大学生自身が主体的に担う

<sup>3</sup> 韓国大学スポーツ総長協議会 (2017.12.31)KUSF2017 年鑑, p.32

<sup>4</sup> 韓国大学スポーツ協議会 (2018.12.31)KUSF2018 年鑑, p.39

ことは、大学スポーツを考える上で、望むべき姿である。このような点で、KUSF の学生による広報・マーケティング活動が、KUSF 大学スポーツ U リーグと KUSF クラブチャンピオンシップの運営に一助していることは、評価できると考える。

日本では、馳浩文部科学大臣（当時）の指示によって、2016 年より大学スポーツ振興についての検討がスポーツ庁で行われた。産官学による 3 年間の検討の末、2019 年 3 月に大学スポーツ協会（UNIVAS）が設立された。スポーツの安全・安心な環境整備と運動部学生のデュアルキャリア支援、大学スポーツの広報などの事業を行っているが、一般学生に対する事業は行われておらず、将来的な課題となっている。大学スポーツを見るだけでなく、支える活動の機会を提供すると共に学生のキャリア形成をす  
る本事例は、日本の大学スポーツの参考になろう。

謝辞：本研究は文教大学湘南総合研究所の研究助成を受けて行った「大学スポーツによる地域振興に関する研究」（研究代表者：小林勝法）の成果の一部である。

## 参考文献

- 韓国大学スポーツ協議会（2019.1.31）韓国大学スポーツ協議会定款（2010.7.16 制定）  
 韓国大学スポーツ協議会（2020.2.7）KUSF 大学スポーツ運営規定（2015.1.21 制定）  
 韓国大学スポーツ総長協議会（2017.1.31）韓国大学スポーツ総長協議会 2016 年鑑  
 韓国大学スポーツ総長協議会（2017.12.31）韓国大学スポーツ総長協議会 2017 年鑑  
 韓国大学スポーツ協議会（2018.12.31）韓国大学スポーツ協議会 2018 年鑑  
 韓国大学スポーツ協議会（2019.12.31）韓国大学スポーツ協議会 2019 年鑑  
 関永淑・小林勝法，韓国大学スポーツ協議会の

成果と課題，大学体育研究，41，51-65，2019  
 韓国大学スポーツ協議会ホームページ <https://kusf.or.kr/>